

部の數名は、夜に入り杉原氏に頼りて何とか解決の緒を得んとて變装して來館せる大塚支部の有力者二名に落ちひ、此處にて杉原氏より河津博士との會見顛末を聞き、去る上は杉原氏に調停を一任する外なしと云ふに一致し、廿七日早朝各支部より若干名宛代表者の出席を求め其の席上に於て、杉原氏に一任する件に就き賛否の意見を徴することとなり、各支部に傳達する方法につき徹宵協議を重ね、廿七日早朝各支部に急使を派したる上、杉原氏は警視廳に出頭し本間官房主事に會見して當日の集會の目的を具申したる後、檢束中の中西氏に面會して歸館したる所約百名の代表者會議は満場一致を以て杉原氏に調停を一任することに決定したれば、氏は直に電話を以て井上電氣局長に従業員側より調停を一任せられたる旨を告げて會見を求めたるも、電氣局としては何人の調停にも應ずるの意志なしとて拒絶した。

此日代表者會議を開くに當り西神田署の警官明治會館に出張し臨檢せんとせるを拒みたる爲め、西神田署に於ては、此の會合は如何なる協議をなすやも圖り難しと思惟せるものゝ如く、午後に至り同署々長以下多數の警官出張して會議に臨檢し、一方協議會に赴き河津博士と會見して引返し來れる杉原氏は會議場に入るに先立ち、警視廳の召喚を受け出頭したれば、S・M・U事務員は、杉原氏は何時歸來するや豫想し難ければとて散會を宣したり。此處に於て出張中の警官は原田氏及數名の代表者を別室に招きて訊問を遂ぐると同時に、代表者中より十數名を檢束したり。而して杉原氏は警視廳に出

頭したる所、正力刑事課長より「事重大につき慎重の態度を取られたし、斯く云ふも敢て調停を希望せる意味には在らず」との注意ありたれば、之を諒として歸館したるは既に代表者會議の散會したる後なりき。

斯くて杉原氏は調停の絶望なるを知り、之を断念したるが、罷業従業員側の悲惨なる失敗に動かされる際とて、中西氏及殘存幹部の切なる懇請を客れ、中西氏入獄中代理々事長として組合のため善後策を講ずるの決意をなしたり。

△杉原氏と組合との關係

杉原氏は交通労働組合内部の人々、特に其幹部等と深き私交ありしに在らず。寧ろ交通労働組合の運動方法に關しては、其不用意なる點多きを慨しぬたる程にて、唯だ同組合顧問にして組合誌編輯の任に當り居たる原田實氏とは小學校教員組合の創立に協力しつゝありし關係上比較的接近し居たり。而して組合の希望に依り、時々従業員の集會に於て労働運動に關する演説をなして組合員間に知らるるに至れり。杉原氏の演説は屢々組合員を感動せしめて、組合員間に氏の印象を深からしめたるは事實にして、中西氏が其の當然託すべかりし原田氏を差し置き、杉原氏に後事を依囑せる所以亦此處にありしならん。されど少しく組合の事情に通せるものゝ間には中西氏檢束されし後は、直に原田氏起